

C-41 ポケットの位置に関する実験的考察

お茶の水女大家政 ○安藤美栄子 沢森真弓 柳沢澄子

目的 衣服のポケットは、物を出し入れしやすい位置につけられていることが望まれる。本研究では、腰部ポケットのポケット口の位置に焦点をあて、官能検査法を用いて着用実験を行い、機能的なポケットについて検討を試みた。

方法 着用実験の要因として、「ポケット口の位置」と「ポケット口の角度」の2項目をとり上げた。「ポケット口の位置」は次のように設定した。まず、各被検者が実験服を着用し、立位正常姿勢において、体幹部を動かさないようにして右上肢の運動を行い、右中指先端の軌跡を実験服に記録した。次に、この軌跡の範囲を、たて方向に5つ、よこ方向に2つに区切り、それぞれの線の交点10カ所をポケット口の位置とした。被検者は若い婦人4名、実験服は原型に近いワンピースドレスである。ポケットの使いやすさの判定は、立位においてハンカチの出し入れのしやすさによった。データの解析は累積法によった。

結果 主な結果は次のようである。

- 1) ポケットの使いやすさは、位置による影響が大である。
- 2) 最も使いやすいポケットは、ポケット口の位置が前正中線と右脇線との中間の線上で、中指先端の軌跡の範囲の上限の位置である。またポケット口の傾斜は、W.L.に対して15度である。